

## 47. ダンチョネ節

作詞・作曲：不明

採譜：白石十四男

オキノカモメーート ショセンコウ  
ーノーセイートハヨヒロイ  
セカイオネマタニーカケダンチヨネ

一、沖の鷗と 商船校の生徒はヨー

広い世界をサ 股にかけ ダンチョネー

二、色は黒いが 商船校の生徒はヨー

ホワイトサイドのサ 船に乗る ダンチョネー

三、沖にチラホラ 灯影が見えるヨー

あれは商船校のサ 練習船 ダンチョネー

四、枕夢おす ドンと来る波はヨー

若い船長さんのサ 胆だめし ダンチョネー

五、惚れちやいけない 商船校の生徒にヨー

末は波止場のサ 泣き別れ ダンチョネー

六、泣いて呉れるな 出船の時にヨー

泣けばホイルがサ 手につかぬ ダンチョネー

七、椰子の木蔭で 昼寝をすればヨー

ワニが出て来てサ キスをする ダンチョネー

八、三十五反の 総帆揚げてヨー

船は出て行くサ 太平洋 ダンチヨネー

九、船は出て行く 鵬は帰るヨー

ほんに俺等はサ 何時帰へる ダンチヨネー

明治時代に流行した流行歌の替え歌で、ダンチヨネは「断腸ネ」即ち断腸の思いの意である。

元唄は神奈川県三崎地方の民謡という説もあったが、平成六年四月二十四日の日本放送協会の総合テレビ「クイズ日本人の質問」の放送の中で、作詞家西沢爽氏は、商船学校の練習船月島丸が明治三十三年十一月遭難して船長乗組員実習生全員が行方不明となる惨事があり、日本全国の人々に大きな衝撃を与え、若い実習生の死を悼んで歌われたのがもとであると解説している。各商船学校や水産学校でもよく歌われているが、歌詞は各学校によって少しずつ違っている。

前掲のソレホイ節の歌詞もダンチヨネ節として歌うことが出来るが、次のような歌詞もある。

欧州航路と 名はよいけれどヨー

残る私をサ どうなさる ダンチヨネー

三浦岬に ドンと打つ波はヨー

若い船長さんのサ 度胸試し ダンチヨネー

逢いはせなんだか シドニーの沖でヨー

四本マストのサ 大成丸 ダンチヨネー

明日はお発ちか お名残惜しやヨー

雨の十日もサ 降ればよい ダンチヨネー

雨の十日は まだまだおろかヨー

雪の千両もサ 降ればよい ダンチヨネー

雪の千両は まだまだおろかヨー

鎗の千本もサ 降ればよい ダンチヨネー

今宵一夜は 鍛子の枕ヨー

明日は千尋のサ 浪枕 ダンチヨネー

長い簪 花魁姿ヨー

波が言い寄るサ 進徳丸 ダンチヨネー

狭い天地に くよくよするなヨー

行くや万里のサ 波の上 ダンチヨネー